

居宅介護計画を連携して作成するためのアセスメント表（参考例）

別紙

利用者名	山田 花子	様	記入日	年 月 日
御本人がアセスメントを求める理由			利用者	
自分では余り必要ないと思うが、相談支援専門員にヘルパー利用をすすめられたから。			山田 花子	
サービス提供責任者がアセスメントを求める理由			記入者	
部屋が汚れているが、御本人はヘルパー利用の必要性を感じていらいっしょらないようなので、御本人が入浴を拒否されているので。			居宅介護 サービス提供責任者 霞ヶ関ヘルパーステーション 東京市	
			福祉専門職員等（精神保健福祉士） 日比谷病院 千代田 幸子	

サービス等利用計画	居宅介護計画	見立て	福祉専門職員等のアセスメント	話し合われたこと	サービス提供時間中に行うこと	サービス提供の際に心掛けて欲しいこと
家事援助 (30分)	掃除 ・掃除機を掛ける	御本人 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 見守り 声掛け 必要 その他	本人は、部屋がそれほど汚いとは思っていないため、掃除機をかける必要性を感じていない。しかしサ責はこのままだと本人及びヘルパーの健康に害があるため、掃除機がけをしたいと希望している。さらに本人は物をどかして掃除機をかけるのが面倒臭いと思っている。	部屋が汚くても気にならないとのことだったが、掃除機をかけないと、ゴミなどが繁殖して刺されることがあるとの話をした。また物がなければ、御自分で掃除機をかけられそうだと思うとのことだった。	●ヘルパーが物を移動させた後に、掃除機をかける。 ●ご本人が掃除機をかけやすいように、ご本人に声を掛けながら物を移動させ、掃除機をかけただ後に元に戻す。	○ヘルパーと声を掛けあいながら、物を移動させた所から掃除機をかけて下さい。 ○物を移動させる時に、必ず声をかけて下さい。 元に戻した時も、必ず「元に戻しました」と声を掛け、本人に確認してもらって下さい。
	掃除 ・ゴミをまとめる	御本人 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 見守り 声掛け 必要 その他	ゴミの分別方法が分からないため、ゴミが捨てられず、どんどんゴミがたまってしまいう状況。本人はヘルパーにゴミを捨ててほしいと希望している。サ責としては、分別せずにゴミを出しても業者が持って行ってもらえないのではと心配している。	入院前にゴミの分別をせずにゴミ出しをして、近隣の人から苦情を言われ嫌な思いをした過去があることを共有し、ゴミの分別を覚えて、ゴミ捨ての心配を減らす提案をした。	●分別が分からないゴミは、ヘルパーに確認してから、ゴミ袋に入れる。 ●ゴミ捨ての際、見守りつつ、分別が分からなかった場合には、「燃えるゴミ、燃やさないゴミ、資源ゴミ、缶・ビン」の分類を伝え、自分で捨ててもらう。 ●ゴミを出す日を聞かれた場合は、ゴミを出せる曜日を伝える。また、紙に曜日を書いてセロテープでゴミ袋に貼り、ゴミ出しの日を忘れないように工夫する。	○少しでも、分別の種類を不安に思った時にはヘルパーに質問して下さい。 ○分別が間違っている場合は収集日に引き取ってもらえない場合がありますので、ヘルパーが声を掛けることをご了承ください。 ○聞かれるまでは、ヘルパーの方からは口を出不さないようにして下さい。 ○ゴミの袋が潰くならないように気を付けて下さい。(潰くとなると、違う袋にでも捨ててしまうことがあるため) ○生ゴミを捨てる際は、必ずコンビニの袋等にいったん捨ててから口を結ぶように練習をして下さい。
身体介護 (60分)	入浴 ・体調確認 ・入浴の役し ・着脱の手伝い ・入浴介助 ・体をふく ・着脱の手伝い ・ドライヤー ・くしでとかす ・水分補給の声掛け	御本人 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 見守り 声掛け 必要 その他	本人は自分が妊娠していると思っており、入浴すると流産するとの考えから入浴を拒否している。 また洗髪の際に、(リンスをたくさん使うと白髪が増える)という考えが浮かぶため、リンスにも拒否的である。 離れた所に住んでいる家族が本人の入浴を希望している。	妊娠している場合でも医学的には入浴した方が良く、入浴で流産することはないことを医療機関から御本人に説明してもらい、御本人が納得した上で入浴のサポートを行う確認をした。	●体調が悪い時以外は入浴して、体を清潔に保ち、病気の予防をする。 ●入浴の介助。(洗髪、洗体、ドライヤー) ●体調が悪くて入浴できない時は、足浴や清拭の声掛けを行い、実行する。	○体調が良くなり入浴ができない時は、せめて清拭や足浴、手浴を行い、清潔にして下さい。 入浴で不安や混乱が起らないように、以下の手順を守って下さい。 ○衣服の着脱は手早く行い、洗髪の際は顔にお湯がかからないようにタオルを渡し、顔に当ててもらおう。また洗髪の際は、リンスの量を少なめにする。 ○湯船には短時間でもよいので浸かってもらうようにする。 ○洗えるところは自分で洗ってもらい、踵は軽石で擦り過ぎないように注意して見守る。 ○脱衣所で体を拭く際は用意してある椅子に座ってもらう。 ○ドライヤーは、冷風で乾かす。(冬の間だけ温風) ○クシでとかす際は手早く行う。 ○すべて終わったら自室に戻ってもらい、冷蔵庫の中のポットのお茶を持って行き、飲んだことを確認してから、コップを下げ、洗って終了とする。
		御本人 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 見守り 声掛け 必要 その他				
		ヘルパー <input checked="" type="checkbox"/> 不要 見守り 声掛け 必要 その他				